
再生の天使と魔法少女たち

金髪碧眼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

再生の天使と魔法少女たち

【Nコード】

N0943BA

【作者名】

金髪碧眼

【あらすじ】

ELSとの対話から50年後。外宇宙を航行していた刹那・F・セイエイは異世界に来てしまう！刹那は異世界に変革をもたらすことはできるであろうか！？

プロローグ

ELSとの対話から50年が過ぎようとしていた

対話を成功させた人類初の『純粹種のイノベーター』でその身と愛機にELSの一部を融合させた『ダブルオークアンタ』のガンダムマイスター『刹那・F・セイエイ』は愛機を駆り、外宇宙を航行していた

そんなある日、ヴェーダ（テイエリア）からの情報で今刹那のいる宙域で謎のエネルギーを感じたという情報が届いた
その調査を受けた刹那は、その宙域を隈なく調査した

「…センサーに異常はない」

いくら調査をしても何も発見できない

「だが、ヴェーダの情報が間違えているなんてことは…」

それはありえなかった

ヴェーダが提示してくる情報には必ず何かある。刹那はそう思った
すると、今まで何も反応しなかったセンサーがいきなり反応した

「なっ！あれは…！」

視線の先には黒く渦上になっている空間がある

しかも、その空間はあたりのデブリを粉々にして吸い込んでいた
ELSの時も木製近辺の星を吸い込んでいた

「っ！機体が…」

クアンタが吸い込まれていたのだ

操縦レバーを動かしてもクアンタは反応せず、ただ流れていくだけ

「うわああああああああああっっっ！！！！」

そして機体ごと刹那は吸い込まれてしまい、目の前が真っ暗になっ
てしまった

プロローグ(後書き)

頑張るっす

魔法の世界

「ここは……地上？」

いつの間にか森の中に立っていた刹那
服もパイロットスーツから外に出るときに着ていたいつもの私服に
変わっていた
手を見てみたら、手は銀色にはなっておらず元の褐色の肌に戻って
いた

「なぜ俺はここに……？」

刹那の疑問に答える者は誰もいない……はず

「知りたい？」

「っ！誰だ!？」

「マスターの後ろだよ？」

後ろに振り向くと、そこには白と水色のドレスのような服を着てい
た少女が立っていた
腰まで伸ばした水色の髪を下げて、綺麗なエメラルド色の瞳。顔立
ちはどこかフェルトに似ていた

「初めまして……じゃ、おかしいかな？」

「……」

「僕はダブルオークアンタだよ」

「クアンタ……なのか？」

「うん。僕もどうしてこうなったのかはよくわからないんだよ。でも、今の状況は説明できる」

「っ……教えてくれ」

クアンタもどうして人の姿になっているのかわからない。だが、おそらくはあの時の黒い空間が関係しているのは間違いないかった。そうしてクアンタの説明が始まった

「マスターはあの黒い空間に吸い込まれたのは憶えているよね？」

「ああ」

「多分、僕がこの姿になっているのはそのせいだとは思っただよね。クアンタと刹那の考えることは同じようだった

「マスターが起きるまで色々調べてみたんだけど……」

「何かわかったか？」

「ここはマスターがいた世界じゃないんだよ」

「何？」

「この世界はマスターたちが暮らしていた世界じゃなくて、あらゆ

る可能性を持った世界『パラレルワールド』なんだよ」

「…」

驚いて声も出ない刹那。過去にクアンタで量子ワープを行なったことがあったが、今回はそれを大きく超えている事態が今刹那の身に降りかかっていた

「…他に分かったことはあるか？」

「うん。どうやらここは『地球』じゃなくて『ミッドチルダ』っていう『魔法』が発達した世界だよ」

「『魔法』？」

彼の頭の中では御伽噺の魔法だと思った

「この世界の魔法はちょっと変わってるんだよ。魔法を使うためにはその人に『リンカーコア』っていうガンダムで言えば『GNドライヴ』みたいなものあって、その人たちのことを『魔導師』っていうんだよ。そしてその魔導師は『デバイス』っていう機械を使って戦うんだよ？」

「随分と科学に近い魔法なんだな…」

「僕もそう思うよ」

「他に分かったことはあるか？」

「ううん。僕が調べられるとしたらこれが限界だった」

「そうか。……なら、お前のことに関しては？」

「僕も詳しいことまではわからないけど、僕がどういった存在かは理解してる」

「それで？」

「僕はこの世界で言うデバイスなんだよ。体を持っているデバイスはそうはいないけど」

「待て。そうなる俺にもリンカーコアというものはあるのか？」

「うん。マスターにもあるよ。ちなみに魔力ランクはAA+だけど……」

「それは少し高くないか？」

「僕はそうは思わないけどな」

可愛らしく首をかしげるクアンタ
だが、クアンタは目付きを変えてある方向を見る

「マスター、こちらに接近してくる機影を30機確認したよ！！」

「何っ!?!」

「でも、僕たちならこれくらい簡単に殲滅できるよ!！」

そうしているとその機影が現れた

そのうちの一機が刹那たちに向かってレーザーを放った

「くっ！」

それを後ろに飛んでなんとかかわす

「大丈夫!？」

「問題ない。それより、どうしたらいい？」

「簡単だよ！僕の名前を呼んで『セットアップ』って言って!!」

「了解！『クアンタ、セットアップ!!』」

クアンタが青白い粒子となって刹那の体を覆い尽くす

青白い粒子『GN粒子』が周りを埋め尽くし、空に一本の柱となつて舞う

粒子がだんだんと形を作っていく、機械的な青と白の装甲となる
体を様子を見てみる刹那

「これは…『ダブルオーライザー』か？」

かつて刹那を変革させた彼のかつての愛機

「うん。魔導師はねデバイスの力を使って『バリアジャケット』を体に纏わせて戦うんだよ。で、ダブルオークアンタはまだ使えないから今はそれで我慢してね？」

「いや、これで十分だ。ありがとうクアンタ」

「う、うん／＼」

クアンタの声が若干上ずっていたのは刹那は気のせいであろうと思
った

「行くぞ！」

「うん！」

「ダブルオーライザー、刹那・F・セイエイ、目標を駆逐するー！」

魔法の世界（後書き）

OPとED募集！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0943ba/>

再生の天使と魔法少女たち

2012年1月2日02時51分発行